麻布乳児院

Azabu infant home だより

わたしたちの「理念」

- ・個性の尊重
- ○心身の健全な発達促進
- ●家族や地域社会との連携

〒106 − 0047 東京都港区南麻布5丁目1番20号





1 子どもの声 2 親子の面会交流について思いを深める 3 乳児院における看護師の役割 4 ボランティアの方への感謝 5 養育者へのインタビュー 6 子どもたちの作品集

広報誌「麻布乳児院だより」では、社会的養護の元にいる子どもの声をお届けすることを主眼としています。 社会の一員として、ともに子どもの声に耳を傾け、一緒に考えていきたいと思います。

3歳のHくんが描いたものを掲載させてもらいました。Hくん、ありがとう! 乳児院にご関心をお寄せいただく声を沢山いただいています。本当にありがとうございます。また来年もどうぞよろしくお願いいたします。(編集委員)

子どもの声



「くるんと寝返り」

0歳の乳児の声

Aくん:あれ?なんだろう?なんかあるぞ。(寝返って) わ!近くなった!なんだか景色も違うぞ。 ん、ん、よいしょ。頭が少し重いけど、 もっとよく見えるようになった!今度はさわってみたいな~~

子どもの様子

最近、寝返りが出来るようになった A くん。寝返りをしてから今までと異なる世界を知った A くんはさらに興味が出てきて、頭を少しずつあげるようになりました。興味や好奇心が子どもを成長させるのだと改めて感じました。最近では腹這いで玩具に手を伸ばすこともあります。その興味が今度は前に進むことに繋がるのだと思うと、これからの成長がとても楽しみです! (小倉)



1歳の子どもの声

Bくん:(いつもみたいに、ゴクゴクのむのも、ころがすのも楽しいな) (もっとこうしたら、おもしろいかな?こうやってみようかな?) 「おお~!」(できた!)

Cくん、D ちゃん:(なんか、楽しそうなことやってる~!やってみよう!)

子どもの様子

以前から、ペットボトルでゴクゴクと飲む真似をしたり、輪っかの玩具を回転させたりして遊んでいました。すると、突然 B くんがペットボトルに輪っかをはめて遊び始めました。輪っかがはまって嬉しそうな B くんを見た C くんと D ちゃんも、ニコニコと近づいて、まねっこ♪新しい遊び方を見つけたり、お友達の遊びをよく見て、真似したり……。いつもと変わらない毎日の中でも子どもたちは常に、キラキラした気持ちで楽しいことを自ら探しているのだなと感じました。(新井)

「なかよく真似っこ」

2歳の子どもの声

E ちゃん: わぁーい! すきなデザートだ! スプーン使って食べるぞ! F くん: E ちゃんがスプーン使ってる! ぼくも使いたいな。 どうやって使ってるのかな?

子どもの様子

いつも一緒の 2 歳のお友達 2 人組。E ちゃんがしている事は F くんが、F くんがしている事は E ちゃんが真似っこをします。この日はいつも手掴み食べをする事の多い F くんが E ちゃんの真似をして自分から進んでスプーンを使っていました。食事の場面では、楽しい雰囲気を大事にすると同時に食事に興味を持ってもらい、スプーンやフォークを使えるように工夫していますが、養育者が教えるだけではなく、子ども達同士が真似っこをしながら自分で使う楽しみを見つける事も大事だと思っています。また、一緒に真似っこをしながら出来る事が増えている 2 人の成長を感じています。(徳田)

「秋の宝さがし」

2歳の子どもの声

Gくん:「どんぐりがたくさん落ちてる!ちゃいろ、みどり…ぼうしを かぶってるどんぐりも見つけたよ。あ!石の下にも落ちてる! ちょっとドキドキするけど、手を伸ばしてみよう…とれるかな……

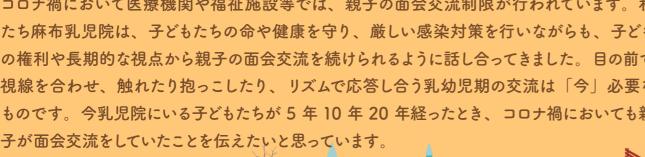
子どもの様子

近くの公園にお散歩に出かけると、いつも必ずたくさんのドングリを見つけては、大切に袋に入れて帰ってきます。大きさや色が違ったり、帽子がついていたりと、1つ1つの違いに気づき、養育者に「なんで?」と問う姿が見られます。居室に持ち帰ったドングリは、綺麗に泥を落とした後におままごとの具材として大活躍です。お玉ですくってカップの中に落とした時の転がる音や、手の平に乗せて触れたときの感触を楽しんでいます。日々の遊びを通して季節ごとの自然と触れ合い、色々なことに興味津々の子どもたちです。(棚田、桑原)



親子の面会交流について思いを深める

コロナ禍において医療機関や福祉施設等では、親子の面会交流制限が行われています。私 たち麻布乳児院は、子どもたちの命や健康を守り、厳しい感染対策を行いながらも、子ども の権利や長期的な視点から親子の面会交流を続けられるように話し合ってきました。目の前で 視線を合わせ、触れたり抱っこしたり、リズムで応答し合う乳幼児期の交流は「今」必要な ものです。 今乳児院にいる子どもたちが 5 年 10 年 20 年経ったとき、コロナ禍においても親 子が面会交流をしていたことを伝えたいと思っています。



生活の場所での面会

麻布乳児院では、居室やプレイルームなど子どもが普段生活する場所で面会を行い、養育者が日 ごろの様子を保護者に伝えていました。保護者が子どもの生活しているお部屋に入り、お気に入り の玩具、使っている寝具等を手に取ることができることで、少しでも安心した気持ちに繋がれれば と考えています。また、子どもが他の子どもと関わる姿、養育者が子ども達と遊ぶ様子、寝かしつ けをしている様子なども近くで見ることができます。他の子どもを見て、「〇〇ちゃんもこうだったな」「こ んなこともできるようになるのですね」「こういう時はどうしたらいいのですか」など会話も自然と生ま れます。面会では保護者と養育者が会話をして微笑む姿を子ども自身が目で見たり聞いたりする時間 も大切にしてきました。コロナ禍になり面会する中で大切にしてきたこと全てを継続するのが難しくなり ましたが、今は保護者と過ごす時間をやめないことを第一に考えている。今後は以前のような面会が行 えるように進めていきたいと思います。(養育主任 秋葉)

新型コロナウイルス 感染症による面会制限

コロナ以前:発熱時や胃腸炎感染症でも、面会制限は特になし

2020年3月~5月:全ての面会を中止する

6月~:週1回1時間2名までの面会を再開

6月19日~:発熱したフロアの面会中止、

その後全てのフロアで面会中止となる

7月18日~:全てのフロアの面会再開

2021年3月~:週1回2時間2名迄の面会

(ケース状況により、異なる)

面会交流の二つの大切さ

コロナ感染対策で、体調チェック等条件を設けて面会交流を実施しています。場所を限定し時間と回数に厳しい制限がある中でも、交 流の積み重ねで子どもと保護者の関係が深まっていく様子に、面会交流を続ける大切さを強く感じます。保護者に人見知りをして大泣き していた子が、抱っこをせがんで別れを嫌がるようになり、固まっていた子が笑顔で遊びを楽しむようになるという変化につれ、保護者 の関わりも愛情も、より大きくしっかりと育っていると感じます。残念なことは保護者に子ども達の生活空間に入っていただけない事です。 居室内面会では自然に目にしていただいていた同室児との様子や養育者との関わりを、今は直接見てもらえません。「子どもってこうい うものなんだ」と見て学べる場に身を置いてもらい、養育者と日頃の様子や育児のコツ、ヒントを伝え合う事と、同じ子どもに愛情を感じ、 共に育てる仲間だという意識をお互いに育むという大切な事が充分にできていないのではと危惧しています。コロナ禍の親子にどう最善 の面会交流を保障できるか、模索する日々です。

(家庭支援専門相談員 ディウフ)



全ての子どもは、生みのお母さんのお腹の中で過ごし、関わりを持っています。お腹の中にいるとき がどんな状態であれ、生みのお母さんは、子どもにとって影響を与える特別な存在です。その子ども に面会があってもなくても、子ども方から「〇〇ちゃんのママ来る?」と子どもが声をあげるのを待つ のではなく、赤ちゃんの頃から「産んでくれたお母さんがいるよ」「元気にしているかな」「元気でい てほしいね | と一緒に願うことを通して、子どものこころのなかに生みのお母さんの存在を「ある」こ とにできる。そういう中で育ってくる「子どもの声」にしっかりと耳を傾けたいと思います。それがときに、 会えない寂しさやいらいらなど、受けとめるのが苦しくなるような声だったとしても、そこにある思いを養 育者と一緒に感じる。子ども達は決してひとりではありません。面会交流を通して育まれる関係性と、面 会交流以前から育める関係性、そしてそのすべてを受けとめる養育者との関係性。「面会交流の制限」と いう出来事から、様々なレベルでの関係性について考えています。(心理士 仲井)

"人命か、経済か" このような論争をメディアを通して耳にする中、コロナウイルス感染症感染拡大に伴い緊急事態宣言が発令され、 様々な日常が制限されました。誰もが予測をしていない事態において、医療従事者である私たち看護師は、入所している子どもたち、 共に働く職員を感染から守る使命を託されました。感染症学に精通している嘱託医のアドバイスを頂きながら、子どもたち、職員だけ でなく、面会に来られる保護者への感染予防対策にも配慮する必要性を学び、面会交流を制限せざるを得ませんでした。 面会交流の制限に対しては医療従事者からの観点と家庭支援専門相談員、里親支援専門相談員、養育者からの観点に多少の温度差 があり、子どもの成長発達、親と子の関係性において制限する事のデメリットについて話し合いを続けて参りました。これからも面会交流 の大切さの理解のもと、話し合いを深め、少しでも早く制限を緩和し、時間を取り戻すべく、子どもと保護者が幸せな心地よい時間を共 有できる面会交流を進められる様、取り組んでまいります。(看護師 村上)

2020 年春の緊急事態宣言の頃、3ヶ月の面会中止。里親交流中だったケースもストップしていまいました。手紙のやり取りだけでは、関係を築くのは難しい。 そんな中、手探りでオンライン面会を実施することに。 4歳の男の子、画面を前に「ねぇ、セミ描いて」「カマキリ描いて」と次々と大好きな虫の絵をリクエスト。 画面の向こうで里親さんが絵を描いて見せてくれます。「テープで貼ってつなげて」と言ったり、自分で描いた虫を見せたりし、あっという間に 1 時間近くに なることも。その後面会再開となり、久しぶりの対面。最初は照れている様子でしたが、画面を通してずっとやり取りしていたこともあり、「ねぇ虫描いて」「次はクモ」 とすぐに遊びの続きを始めました。里親を必要としている子どもにとって、里親さんとの初めての対面や乳児院での交流が大切だという事は言うまでもありません。 1日でも早く子どもが里親さんに会い、丁寧に里親家庭にバトンタッチしたいと思っている中、コロナを理由に延期するわけにはいきません。大人にとっての3ヵ 月は、子どもにとっては大きな3ヵ月です。あの時の面会中止が妥当だったのかと考えると、今でも歯がゆい気持ちが蘇ります。里親さんと子どもたちの会えな い期間を何とか繋ぎ止めた日々でした。(里親交流支援員 首藤)

乳児院における看護師の役割

ある日、2歳の子どもが過ごすお部屋を訪れた時、私の顔を見るなり自分のシャツを首のあたりまでまくり上げ、 ちょこんと座って待つ様子を目にしました。お咳と鼻水が出ていて、お胸の音を私が聴診器で聴きに来たのを 知っていた様です。とても微笑ましい光景でした。

私たち看護師は新生児~乳幼児の発育・発達を理解し、日常の健康管理や予防接種の対応、流行疾患を 把握し、予防に努めるための発信源としての役割を担っています。また、怪我等に対しても迅速な判断とアセ スメント能力が求められます。他の専門職と連携し、個々の成長発達を促す関りも必要と感じています。入所 中の子どもたちにとって愛着形成を築く大切なこの時期、子どもの心と身体の両面を並行して大切に関り、心 を育てる事も看護師として大切な役割であると考えています。また、今後の課題としては、子ども達と日々関わ る職員の心と身体のサポート体制を充実させてゆきたいと考えています。(看護師 村上)

ボランティアの皆さま、いつもありがとうございます!









クリスマスツリーをプレゼント!

"和田孟志と愉快な仲間たち"の朝田エミさん、松本セルソさん、川岸功明さん、 ケビンさん、イクオさん、KANI さん、SUSUMU さん、TADA さんが クリスマスツリーをプレゼントして下さいました。



30 年ほど前から毎年、麻布乳児院でのクリスマス会の 際に、ケーキを寄贈して下さっている玉田耕一先生。

現在は社会医療法人 入間川病院、介護老人保健施設 雪見野ケアセンターの医 師として、日々利用者の皆様の健康を見守っていらっしゃいます。

子どもたちへの想いをお聞かせ下さい。

玉田先生:これまで小児科医としても様々な子どもと出会う中で、子どもはやはり天使の ようで、可愛いという想いがあります。今でも関わった様々な子どもたちを思い出します。

子どもたちにケーキをありがとうございます。

玉田先生:決して何か特別ないいことをやろうと思っているわけではなく、ケーキを子ど もたちに贈ることで私の方が嬉しくなります。今年も喜んでもらえるかな、と思います。

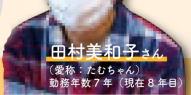
長きに渡り乳児院を見守って下さり、心より感謝しております。

玉田先生:長いことやっていると不思議な奇跡が起きるのが、人生。30年とは言え、 まだまだ 30 年と思っているんです。これから、40 年、50 年と続きます。

養育者への vol.1 4 7 8 8 = -



勤続年数8年(現在9年目)



この職業を選んだきっかけは何ですか?また乳児院を希望したきっかけは何ですか?



私が保育園時代、父母が忙しくお迎えは大体一番最後でした。 心細く寂しかったですが保育園の先生が優しくしてくれました。 これがきっかけで将来の夢は保育士!となりました。保育士とい う夢を叶え働き出したものの挫折を味わいました。一度保育か

ら離れてみましたがやっぱり子どもと関わることが好き!と思っていた時、友人 から乳児院を勧められ働くことを決意しました。

大学を卒業し保育士の資格を取得しましたが、やりたいことは別 にありました。就職をどうしようと3か月ほど考えていた時、保 育ルームのバイトの話がきたので、保育補助として働き始めてみ ました。2年程経った時、同い年の職員のやり方や保護者に対 する接し方などに不満が募るようになりました。これを機に正職としてやって

乳児院以外の場所で経験をしてきたお二人。実際に乳児院で働き、どんな風に感じましたか?



保育園や幼稚園に来る子たちとは違って、全てをここで受け止 めなくてはいけないので、どう向き合って良いのか?悩みました。 そして挫折もありました。

世の中のお父さんお母さんて凄い!!と思いました!



担当者の時に、日に日に甘えが強くなったり、表現の仕方を色々 変えたりする子どもたちの姿に驚かされました。 子育てって一人では出来ないな!ワンオペなんて! 世の中のお父さんお母さんて凄い!!と思いました!

子どもたちと関わっていて一番好きな自分はどんな時ですか?

いこうと決意し、麻布乳児院と出会いました。



子どもが面白いことをして、それを見て笑っている自分!またそ れにつられて子どもも笑っている状況!廊下にまで楽しそうな声 が聞こえてくると、ついついその部屋を覗きたくなってしまいま



言葉に出来ない子どものニーズに嚙み合った時! (子どもの心・気持ちを理解して行動出来た時)

、この仕事をやっていて一番印象に残っていることは何ですか?



他の養育者から「あすちゃんて(担当児)のことどう思っている のかな?」と担当児が気にしていたと聞かされました。その頃は 自分に照れがあり好きという言葉が使えず、言葉にしなくても伝

わると思っていました。しかし先輩養育者に「恥ずかしがっている場合じゃな い!言葉で伝えなきゃいけない!」と教えられました。それから言葉で伝える ことを意識し、担当児とは更に良好な関係を築くことが出来ました。言葉に して伝える事の大切さを教えて貰えて良かったです。この経験を後輩にも伝 えていきたいと思います。

入所した頃は、周りに興味をあまり示さず、その子らしさが見え ない印象でした。その後乳児院で過ごす中で日に日にその子ら しさが表れてきて保護者との関係も良好になり、画用紙いっぱ いに笑顔の絵を描ける程になりました。保護者との再構築のお手伝いをさせ てもらっていてその"ツナギ"(ハンバーグでいうタマゴの役割)になれたんだ! と、改めてもの凄い役割を担っているなと実感しました。また、そのツナギ の役割を果たせて良かったと思いました。

▲ 今後乳児院で働く上で大切にしたい事などは何ですか?



子どもを育てるには大人が必要です。また、その大人は一人で はなく職員全員です。その全員で助け合いながら働ける環境に していきたいと思っています。

麻布乳児院をより良くしていく為の一つとして、経験の浅い職員 の相談にのり、力になりたいと考えています。



麻布乳児院で働いて良かったなとみんなが思える職場になると 良いなと思っています。

悩んでいたり、気になる職員がいたら声掛けの仕方を先輩に相 談し、アドバイスをもらいながら、若い子の力になりたいと思い

インタビューを終えて

今回初めて職員へのインタビューを行い、率直な感想としてはとても楽しい時間でした。普段改めて中々聞くことが出来ない話を、私だけが聞くことが出来てラッキー! とも思えるものでした。お二人がここに来るまでには色んな経緯、思い、考えがあり、ここで学んだこと、経験して感じたこと、また仲間に対する思いなど、聞けば聞く ほど熱いものでした。ここでは紹介しきれない数々のエピソードがあり、院内研修等で紹介出来たら他の職員の学び、励みにも繋がると思いました。次はどんな話が聞 けるのかな?と胸が高鳴ります。 インタビュアー 荻原